

マテリアリティ

マテリアリティ		中長期の目指す姿	指標・KPI	評価(2025)	2025年度の主な対応と実績
成長戦略	1 パイプラインの強化	トップサイエンティストと協働して世界を変える新薬づくりを加速し、新薬候補のPOC確立のスピードと精度を向上させるとともに、ライセンス活動によりパイプラインが拡充している。	- 臨床開発のステージ移行数 - 新規臨床移行品目数 - 研究・創薬提携実施数 - 化合物ライセンス契約数	○ ○ ○ ○	- 臨床開発のステージ移行数 P1：5、P2：0、P3：4、申請：2、承認：3（オブジーゴ関連を含む） - POC確立数：2件 - 新薬臨床移行品目数：4品目（ONO-2416、ONO-7429、ONO-3310、DCC-2812） - 研究・創薬提携実施数 国内外で約120件（2025年新規締結40件） - 化合物ライセンス契約数 4件
	2 グローバル事業の拡大と加速	世界で聞えるスペシャリティファーマとして、グローバルでの事業拡大を加速している。	- キンロック、ロンビムザの製品価値最大化 - ベレキシブルの米国申請と上市準備	○ ○	- 欧米の開発・販売機能をデサイフェラ社に統合完了 - キンロック通年売上、前期比129億円（50.6%）増の384億円 - ロンビムザ欧州承認取得と販売開始による売上83億円 - ベレキシブル米国FDA承認申請完了とFDA受理
	3 製品価値最大化	患者さんとそのご家族のウェルビーイング実現に医療従事者とともに挑み、その結果として新薬が速やかに浸透している。	- 新たに新薬を届けた患者数 - 主要製品ごとの売上 - 日本・韓国・台湾での承認申請・承認取得数	○ ○ ○	- 新たに新薬を届けた患者数 約110万人 - 主要製品ごとの売上 オブジーゴ点滴静注 1,143億円／フォシーガ錠 882億円 - 承認取得数 日本3、韓国3、台湾2、欧州1 - 承認申請数 日本2、韓国4、台湾2、米国1
	4 事業ドメインの拡大	デジタルや当社の強みを活用し、社会課題の解決、次世代ヘルスケアの実現に貢献する。	新たな製品／サービスの提供数	△	- 新規機能性表示食品「サエフル」の届出受理 「michiteku」の対応がん種の拡大と利用者の増加
成長戦略推進のための基盤	5 デジタル・ITによる企業変革	セキュアなグローバルIT基盤を整備するとともに、デジタルによる企業変革を実現している。	- 新薬候補の創出、スピード向上に寄与したDX・IT案件数 - グローバル事業インフラの整備状況 - 重大インシデントによる業務影響ゼロ - DX・ITプロジェクトの主要マイルストーン達成状況 - IT資産ポートフォリオ管理手法の整備状況	○ ○ ○ ○ ○	- 新薬候補の創出、スピード向上に寄与したDX・IT案件数：計画に則り複数案件を推進中 - グローバル事業インフラPMIの整備状況：計画通り進捗 - 重大インシデントによる業務影響ゼロ：2025年度重大インシデント発生ゼロ - DX・ITプロジェクトの主要マイルストーン達成状況：計画通り進捗 - IT資産ポートフォリオ管理手法の整備状況：全社のIT資産見える化環境を整備
	6 人的資本の拡充	企業理念・ビジョンの実現に向けた人財戦略に基づき、事業の成長に資する人財の採用と育成、そして多様性の向上と一体感の醸成につながる組織風土の実現に向けて取り組みを進めている。人財を惹きつける制度・施策が定着しており、かつ全ての社員が安心・安全に働くことのできる環境が提供されている。	- 次世代経営人財プール数：2026年度目標：250人以上 - グローバル人財プール数：2026年度目標：300人以上 ①DXプロジェクトに参加して活躍できる人財プール数：2026年度目標：500人以上 ②DXプロジェクトを企画・管理・遂行できる人財プール数：2026年度目標：200人以上 - 中核的なイノベーション人財：2026年度目標：180人以上	○ ○ ○ ○ ○	- 本部長・統括部長候補者の計画的な選抜・育成の推進 次世代経営人財プール数：239人 - グローバル事業を担う人財の育成に向けた研修および人事異動の実施 グローバル人財プール数：181人 - デジタルトランスフォーメーションを企画・牽引する人財の育成、研修プログラムの実施 デジタル人財プール数：1,056人（①786人＋②270人） - イノベーションを起こすためのプログラムの提供、変革の推進 イノベーション人財プール数：135人 - グローバルでのミッションステートメント研修、DE&I推進施策、等の実施

マテリアリティ

マテリアリティ		中長期の目指す姿	指標・KPI	評価(2025)	2025年度の主な対応と実績
持続可能な 社会の実現	7 地球環境の保全	● 人々が健康で健全な社会を迎えられるよう、「ECO VISION 2050」のもと、製薬業界における環境リーディングカンパニーを目指し、次世代へ豊かな地球環境を引継ぐことに努める。	「ECO VISION 2050」に紐づく中長期環境目標の達成 ● 脱炭素社会の実現 スコープ1+2排出量を73%削減(2017年度比)、購入電力に占める再エネ利用率100% ● 水循環社会の実現 水資源の効率的な利用、排水の水生生物影響評価100%実施(対象拠点:自社工場・研究所) ● 資源循環社会の実現 不要物の再資源化率60%以上	○ ○ ○	「ECO VISION 2050」に紐づく中長期環境目標の達成 ● 脱炭素社会の実現:2025年スコープ1+2 カーボンニュートラル達成(ボランタリークレジットを活用した実質ゼロ)、購入電力に占める再エネ電力比率100% ● 水循環社会の実現:水資源使用量(取水量)を42.8%削減(2017年度比) ● 資源循環社会の実現:不要物の再資源化率66.0%
	8 社会的信頼の向上	● 品質保証および安全管理の業務を適正に行うとともに、患者さんに当社製品を安定的かつ継続的に改善しながら供給する。 ● 国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づいたマネジメントを実践するとともに、ビジネスパートナーのサステナビリティ関連リスクを把握し、持続可能な社会の実現を目指して共に取り組んでいる。 ● 希少疾患や小児疾患に対する革新的医薬品の提供と医療インフラの未成熟な地域での医療基盤整備に貢献する。	品質保証、安全管理、安定供給 ● グローバルな品質保証/安全管理体制の構築 ● 規制当局査察による重大な指摘ゼロ ● 当社製品回収ゼロ ● 欠品発生ゼロ	○ ○ × ○	品質保証、安全管理、安定供給 ● 製品の品質および安全管理体制に関する適切なグローバル体制の構築 ● 米国ベレキシブル上市に向けた、米国向け製品の査察対応体制の整備 ● 不確実性に対応可能な安定供給体制の構築 ● 当社製品回収 1件 ● 欠品発生 0件
			当社事業に関する多くのパートナーとの関係構築(～2026年) ● より強固なリスク管理体系の構築(方針、サステナブル調達コードの制定、体制確立) ● 高リスク分野の企業に対する包括的評価の実施	○ ○	当社事業に関する多くのパートナーとの関係構築 ● リスク管理体系の構築(方針、サステナブル調達コードの制定、体制確立) ● ビジネスパートナーに対するサステナブル調達コードの同意書取得、リスクアセスメントと現地監査の実施
			人権リスクマネジメント(～2026年度) ● 当社グループの人権デュー・ディリジェンスを実施 ● 優先度の高いサプライヤーに対する人権リスクアセスメントの実施	○ ○	人権リスクマネジメント(2026年度) ● 当社グループの人権デューディリジェンスの実施 ● 優先度の高いサプライヤーに対する人権リスクアセスメントの実施 ● 人権に関する社員教育の実施
			医療アクセスの向上 ● 希少疾患/小児適応の承認取得数 ● プロジェクトのアウトカム目標	○ ○	医療アクセスの向上 ● アンメットメディカルニーズの高い希少疾患や小児適応に対する新薬開発・適応拡大 ● 希少疾患/小児適応の承認取得数 日本2、欧州1 ● NPO/NGOとの協業による医療インフラ未成熟地域のローカルキャパシティビルディング支援
	9 ガバナンスの強化	● コンプライアンス違反の未然防止を実現するコンプライアンスリスク管理体制の確立など、持続的な成長を実現するための実効性あるガバナンス体制を構築する。	● 重大なコンプライアンス違反件数	○	● コンプライアンスを含めたグローバル対応の全社的リスクマネジメント(ERM)の確立 ● 製薬事業の関連法令・規制の遵守、適正使用の推進、腐敗・汚職防止、情報の保護等 ● コンプライアンス違反の未然防止に主体的に関わる文化の醸成 ● 重大なコンプライアンス違反 0件 ● 取締役会によるガバナンス強化
			● 取締役会実効性評価を通じた運営改善	○	● 成長戦略の進捗等を踏まえた取締役会の議題設定や付議基準の見直し(付議基準の適正化による意思決定の迅速化、経営環境の変化に対する監督機能の強化)